



職業訓練（熊本市）

ます。しかし、住民福祉の向上を図るためには、県勢発展の基礎となる産業の振興が重要な鍵であり、まだまだ不備な点が指摘されます。個別的な大きな事業としては、臨海部、特に埋立造成地への工業の誘致促進、農村工業導入地区への工業の誘致促進、農業生産基盤整備の一層の推進などがあげられます。総合的な問

題としては、産業の地域的配置に格差が見られることであります。これらの問題は、一時には解決できないとしても極めて重要なことであり、計画的・効果的に改善を急ぐ必要があります。



九州自然歩道（高森町）

このため、自然公園の整備事業や余暇施設の整備事業の施策を積極的にとり入れ、到達道路や駐車場、園地、宿舎、野営場等の施設の整備を進めています。また、昭和四十九年度においては、九州の自然や歴史、文化財を訪ねて歩く九州自

然歩道の建設が採択され、昭和五十年からこの事業に着手し、昭和五十二年までには八十八・八kmの整備を実施しています。また、地域産業に密着した産業観光、歴史遺跡の探訪、サイクリング道の整

備、観光地の案内標識の整備など、新しい時代にふさわしい観光の振興に努めており、郷土の自然や歴史を見直すために植物、動物、文化遺跡等を紹介する「風土とこころ」シリーズ（十二巻）を発売し、くまもとの旅やレジャーマップ等の宣伝物を作成する一方、受入体制についても親切運動、観光地の美化、観光情報の提供等の充実を図り、観光レクリエーション活動の増大に対応しています。

商業の近代化と貿易の振興については、高速交通ネットワークの整備、海上輸送網の整備、東南アジア・中国などの対外交流の活性化、工業開発の新たな展開などに即応して、流通体系を整備し、商業の近代化と情報機能の高度化を図ることにより、消費者の真に欲する物資やサービスの安定的、効率的な供給体制を確立することが必要です。そのため、商業の近代化のための施策、海外経済交流事業、海外市場調査事業、海外技術協力推進事業などの貿易振興についての施策を実施してきました。

技能者の育成と勤労者福祉の向上については、労働環境の改善と勤労者福祉の向上に努め、安心して楽しく働ける生活環境と魅力ある職場づくりを図る一方、積極的な失業の予防と離職者の円滑な再就職を促進す

るため、中高年齢者の雇用促進、職業訓練の充実、勤労福祉施設の設置、勤労青年ホームの建設、中小企業従業員住宅貸付事業などの事業を実施してきました。

県生産品の地域別輸出額の推移

（単位：百万円）

| 地域 | 45年 | | 50 | | 51 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|
| | 輸出額 | 構成比(%) | 輸出額 | 構成比(%) | 輸出額 | 対前年比(%) |
| 総額 | 15,443 | 100.0 | 43,527 | 100.0 | 100,703 | 231.4 |
| ①アジア州 | 6,598 | 42.7 | 4,446 | 10.2 | 19,816 | 445.7 |
| ②ヨーロッパ州 | 2,415 | 15.6 | 4,225 | 9.7 | 10,271 | 243.1 |
| ③北アメリカ州 | 3,747 | 24.3 | 7,247 | 16.6 | 14,775 | 203.9 |
| ④中南アメリカ州 | 304 | 2.0 | 1,935 | 4.4 | 2,373 | 122.6 |
| ⑤太平洋州 | 839 | 5.4 | 459 | 1.1 | 814 | 177.2 |
| ⑥アフリカ州 | 131 | 0.8 | 13,881 | 31.9 | 31,436 | 226.5 |
| ⑦中近東圏 | 769 | 5.0 | 5,770 | 13.3 | 13,140 | 227.8 |
| ⑧共産圏 | 534 | 3.5 | 1,696 | 3.9 | 5,178 | 305.3 |
| ⑨不詳 | 106 | 0.7 | 3,869 | 8.9 | 2,900 | 75.0 |

以上のように、産業の高度化と働く環境の改善を目指して、各種の施策を展開してきた結果、それぞれの分野において改善が図られ、向上進歩のあとがみられ

社会指標からみた県民生活の推移

国民の福祉水準の向上は経済社会政策の究極の目的であり、行政の目標でもあります。国民の福祉水準は、いろいろの解釈の仕方や見方をもっており、これを客観的な計数等で表わすことは極めて困難を伴います。

これまで日本のおかれていた状況から、まず国民生活の量的拡大を目指すことが、第一であり、主として所得や消費水準の向上を図ることに重点がおかれていたこともあって、GNPに代表される国民所得統計、すなわち「所得の多寡」が国民生活水準の尺度として重要視されてきました。確かに昭和三十年代から四十年代中期にかけての高度経済成長期にあっ

たのは、GNPなどの指標は飛躍的な向上をとげました。しかし、経済成長によりもたらされた所得の増大は人びとの価値観を多様化させるとともに多様な欲求を生じさせる結果ともなりました。また、この経済成長の過程で、環境破壊、過密、過疎の進行、インフレーション等の歪みが顕在化し、物質的豊かさの中で精神的不満もみられるようになりました。

熊本県のすがた

